古代文明に刻まれた宇宙 ―天文考古学への招待

ジューリオ・マリ 著　上田晴彦 訳
青土社　四六判　340頁　本体2,800円＋税

「天文学」.「宇宙」.「古代文明」. と老若男女問わず興味をそそるキーワードを兼ね備えた本書は，決して怪しい似非科学本でもないし，気軽に読めるような啓蒙書でもない．真剣に天文学を手段とし，古代文明の遺跡を数値的に計測し，古代建造物と天文学のかかわりあい，さらには，建設に関わる価値観や宗教観・権力など文化人類学情報を引き出し裏付けるための「天文考古学」に関する立派な教科書である．

本書は三部構成となっている．第一部は肉眼で見える天体や位置天文学の基礎的な内容が網羅され，天文学の基礎がない人にもわかりやすい内容になっている．なお，古代遺跡の建設者が明確な意図をもって天体現象と関係がある建物を使ったかどうかを判定するための統計的有意性や当時の測定誤差を解説する章では，啓蒙書として読み始めた一般読者を一気に突き放す内容となっている．

第二部は，人類の文化の成り立ち，生死感や文化と天文学の関係を解説している．また，考古学での天文学アプローチの位置づけや，研究をする際の心構えが書かれており，筆者のプロフェッショナル魂を感じた．

第三部は，ピラミッドやストーンヘンジなどの具体的な遺跡の例を挙げて，天文考古学の研究成果を解説している．図や写真よりも，専門用語を使った文章が支配的となる本部の熟読にはそれなりの労力がいる．訳者もご苦労なされたと思うが，もう少しビジュアルを増やしたほうが一般読者も気軽に読めた内容になったのではないかと感じた．むしろ，本書を元にビジュアル教材を作っていただきたいと願う．

天文考古学を目指す若者には是非読んでいただきたい入門書となるのであろうが，何十億年前の空を見ている天文学会員には，少々ベクトルが違うのかもしれない．

岡部信広（広島大学）

宇宙用語図鑑

二間瀬敏史 著
マガジンハウス　A5判　304頁　本体1,800円＋税

世の中には図鑑があふれている．元素図鑑，起源図鑑，寿命図鑑，寄生蟲図鑑，ゆるふわ昆虫図鑑，戦国武将図鑑，日本の神様解剖図鑑……果ては，超暇つぶし図鑑，おじさん図鑑，モテしぐさ図鑑なんてものまである．天文関係に限っても，宇宙図鑑，星空図鑑，星座図鑑，深宇宙図鑑，天文キャラクター図鑑……とさまざまである．その中で本書は「宇宙用語」をタイトルに掲げているだけあり，通常の図鑑が天体写真等ビジュアルをメインに据えているのに対し，本書は一切の写真を排し，すべて簡潔なイラストで見せることで用語にフォーカスを当てているという点でユニークである．

本書のナビゲーターであり様々な宇宙用語を解説してくれる親切な宇宙人ペポーは一見ゆるキャラであるが，その姿に騙されてはいけない．博学多才（コスプレ趣味もあるらしい）なペポーの言葉は適切的確であり，さすが数百万光年のかなたから地球にやってきた高度文明人であるとうなずかせてくれる．この“ギャップ萌え”も本書の魅力の一つといえよう．

帯には「知っておきたい宇宙の基礎知識300」と書かれているように，本書は地球から太陽系，恒星，銀河，ビッグバン，さらにはマルチバースなど宇宙に関する様々なキーワードを網羅しており，天文学を志す初学者，宇宙・天文ニュースに関心を持つ人々にとってはよい手引きとなるだろう．またイラストとともに簡潔に用語がまとめられている点は専門家にとっても広報普及活動などの際に参考になるだろう．ペポーの知恵が詰まった本書を広くお勧めしたい．

ちなみに本書の読後，筆者は書店でつい「哲学用語図鑑」なる本を手に取っていた．これも高度文明人ペポーのなせる業であろうか？

小宮山裕（国立天文台）